

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 17 日現在

機関番号：32631

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20402062

研究課題名 (和文) 東アジアにおける「持続可能な開発のための教育」の学校ネットワーク構築に向けた研究

研究課題名 (英文) A Study for the Creation of School Network of Education for Sustainable Development in East Asia

研究代表者

永田 佳之 (NAGATA YOSHIYUKI)

聖心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：20280513

研究分野：比較教育学、国際教育論

科研費の分科・細目：社会科学B・教育社会学

キーワード：

1. 研究計画の概要

(1) 持続可能な地域社会の構築を目指し、学校教育、特に東アジア地域における学校教育のネットワークの可能性や課題を明らかにする。特に持続可能な開発のための教育 (ESD) の視点、すなわち、環境・社会・経済そして文化のバランスのとれた発展を同地域が遂げるには、学校教育がいかなる役割を担うことができるのか等について検討する。

(2) 上記の課題に向けて、バルト海プロジェクト (BSP) 等の先進事例を研究する。

(3) 併せて、東アジア諸国についても調査し、学校ネットワーク構築の課題等について調べる。

2. 研究の進捗状況

上記の (1) 及び (2) についていくつかの重要な要点を中間報告書の中にまとめることができた。同報告では、国連の旗艦プロジェクトである「ASPnet フラグシップ・プロジェクト」を包括的に紹介し、特に「バルト海プロジェクト」についてアンケート調査結果などを掲載した。併せて、日本におけるユネスコスクールの取組みやフィンランドやドイツの事例も盛り込んだ。さらにユネスコスクールの認証制度としてドイツやフィリピン、韓国の事例を紹介した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。予定どおり、中間報告書を刊行し、中間時点での研究成果への反響も受けるようになった。

4. 今後の研究の推進方策

研究開始以後のニーズに応えるべくして

BSP 研究等の欧州での動向調査に相当の時間と労力を割いてきたが、アジア調査が少々手薄になっている。この点を最終年で出来る範囲で補填していきたい。また、ユネスコ等が推薦するアジア地域以外での優良事例があるが、これらの調査についても検討していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 0 件)

〔学会発表〕 (計 1 件)

発表者：丸山英樹、曾我幸代、永田佳之
発表標題：ユネスコスクール・ネットワーク再考ーバルト海プロジェクト調査からの示唆ー

学会名：日本比較教育学会

発表場所：神戸大学

発表年月日：2010 年 6 月 27 日

〔その他〕

上記の中間報告書は下記の URL にて入手することができる。

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp/nagata/A.pdf>